

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji

平成28年のサケ科魚類・海面養殖の生産実態 及び魚病被害のアンケート調査結果

静岡県内のサケ科魚類及び海産魚の養殖業者の方々に御協力いただいた平成28年の生産実態及び魚病被害のアンケート調査結果をまとめましたので概要を報告します。

方 法

県内でサケ科魚類及び海産魚の養殖業を営む経営体を対象にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は平成28年1月1日から12月31日までの1年間です。

結 果

1 サケ科魚類（表1）

(1) 経営体数

経営体数は延べ53軒、実経営体数は32軒でした。前年比でニジマスで2軒、アマゴで1軒、イワナで1軒増加しました。

(2) 生産量

生産量は1,402トンで前年比で116%、195トン増加しました。ニジマス、ギンザケ、アマゴ、イワナともに前年に比べ増加しました。

(3) 魚病被害状況

魚病被害量は53.8トンで前年比で57%、40.9トン減少しました。内訳はニジマスが最も多く46トンで生産量の3.9%を占めた他、アマゴは7.3トンで同16.1%を占めました。

主な疾病は、ニジマスではIHN、ビブリオ病、冷水病など、アマゴではせっそう病、細菌性腎臓病でした。



表1 サケ科魚類のアンケート調査結果

魚種	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病		主な疾病
			被害量 (トン)	被害割合 (%)	
ニジマス	17	1,171	46.0	3.9	IHN、ビブリオ病、レンサ球菌症、冷水病
ギンザケ	3	38	0.5	1.3	せっそう病
アマゴ	21	45	7.3	16.1	せっそう病、細菌性腎臓病
イワナ	6	102	0.0	0.0	
その他*	6	46	—	—	
合計	53(32)*	1,402	53.8	4.0	

※経営体数合計のカッコは実経営体数

2 海産魚（表2）

(1) 経営体数

経営体数は延べ34軒、実経営体数は17軒でした。前年比でマアジでは1軒減少、マダイでは2軒増加しました。

(2) 生産量

生産量は2,234トンで前年比112%、244トン増加しました。マアジは前年比で85%に減少したものの、マダイ、ブリ、シマアジは前年に比べ増加しました。

(3) 魚病被害状況

魚病被害量は51.6トンで前年比59%、36.1

トン減少しました。内訳はマアジが最も多く35トンで生産量の9.2%を占めた他、マダイは8.1トンで同0.6%、ブリは6.7トンで同2.1%を占めました。

主な疾病は、マアジではビブリオ病、レンサ球菌症、マダイではイリドウイルス病、エドワジェラ症、ブリではノカルジカ症、レンサ球菌症でした。

本アンケート結果の詳細は、静岡県水産技術研究所「平成28年度事業報告」に掲載します。

（佐藤孝幸）

表2 海産魚のアンケート調査結果

魚種	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病		
			被害量 (トン)	被害割合 (%)	主な疾病
マアジ	9	380	35.0	9.2	ビブリオ病、レンサ球菌症
マダイ	12	1,411	8.1	0.6	イリドウイルス病、エドワジェラ症
ブリ	3	320	6.7	2.1	ノカルジカ症、レンサ球菌症
シマアジ	3	57	0.9	1.6	
その他	2	29	0.9	1.4	
陸上ヒラメ	3	32	—	—	
陸上その他	2	5	—	—	
合計	34(17)*	2,234	51.6	2.3	

※経営体数合計のカッコは実経営体数

トピックス

静岡県かん水養魚協会総会・水野芳嗣氏の記念講演開催

平成29年5月24日に静岡県かん水養魚協会通常総会が開催され、記念講演として、水野芳嗣氏を招いた講演会を開催しました。

水野氏は沿海漁協職員として魚病検査や防疫対策に長年従事され、退職された現在は養殖技術ボランティアとして国内外でご活躍されています。

講演は「アミノ酸による水温ストレス軽減の試み」と題し、マアジの夏季高水温期の減耗対策として、飼料へのアミノ酸添加事例を紹介いただきました。水槽実験で水温ストレスの軽減に効果のあったアルギニン、グルタチオンを野外実験でマアジ飼料に添加したところ、対照区に比べ累積死亡率が減少し、疾病発生時の投薬効果も高いとの感触も得られたとのこと。アミノ酸製剤は市販品もあり、投与方法は粉末薬と同様に飼料と混ぜ合わせればよく、飼料メーカーへ特注すれば手間もかかりません。

沼津地区でもマアジの夏季には疾病や高水温での減耗が大きな課題であり、期待できる手法だと思われます。

講演の他、現場視察も行い、日常管理などについて養殖業者と多くの意見交換がされました。

（佐藤孝幸）



養殖業者に指導する水野氏（右）

第 29 回にじます祭が開催されました

平成 29 年 7 月 30 日に、富士山本宮浅間大社となりの神田川ふれあい広場を会場に、第 29 回にじます祭が開催されました。前回第 28 回が 3 月でしたので半年も経たずの開催でしたが、ニジマスは夏が似合うと、今回から開催時期を夏としました。

前回、前々回と有志で企画会議を開き、新企画を打ち立ててきましたが、今回から実行委員会の下に正式に作業部会を設け、富士養鱒漁協職員を中心に、富士宮市農政課や当场も事前協議に参加して新生にじます祭の集大成にすべく準備を進めました。

今回も前回に引き続き『たけのこ王』こと風岡直宏さんと富士宮プロレスに参戦いただき、つかみ取り対決やちゃんちゃん焼き調理実演、

ふるまい餅などのイベントを行った他、市内富丘小学校による「ヘルシーにじますクン踊り」の披露、富士養鱒漁協を始めとする物販ブースも数多く出店しました。前回の記事で紹介し忘れましたが、お隣富士市の沿海漁協、田子の浦漁協も前回から出店してくれていて、自慢の「田子の浦しらす」商品の販売もありました。

富士養鱒場は、県民の日企画として前回に引き続き「稚魚すくい」で出展し、たくさんの子どもたちに楽しんでもらいました。

さて、近年は少し寂しい様子のにじます祭でしたが、漁協職員有志の努力によって賑わいを取り戻しました。来年からの祭がどのようなものになっていくかが楽しみです。（佐藤孝幸）



おそろいの鱒Tで気合十分！



うまいよ～、熱いよ～ マス塩焼き



たけのこ王 と にじます王(土田組合長)



富丘小・たけのこ王・宮プロ 夢の共演

第 29 回にじます祭の様子

内水面漁業関係で講演を行いました

今季は、内水面漁業関係の講演が例年に比べて多くありました。講演の概要や、今後の予定を紹介します。

1 内水面漁協役員監視員研修会

概要	静岡県内水面漁連主催の漁協役員等を対象とした研修会
月日	4月26日、5月10日、5月15日
場所	レイアアップ静岡、天竜川漁協プラザヴェルデ
人数	7名、31名、19名
演題	河川への病気の侵入 (演者：佐藤孝幸) 誰のための「川づくり」か？ (演者：木南竜平)

例年、アユ解禁前に行われる漁協の役員や現場の監視員の方々を対象とした研修会です。

県庁水産資源課からは関係法令や漁場における監視員の役割、行動規範等について、当场からは冷水病等の病気、特に外部からの侵入経路と遊漁者に向けた防疫施策の周知や協力依頼の必要性を解説しました。

さらに今回は、昨年度実施したアユ遊漁者へのアンケート調査の結果の解説とともに、その結果に基づき作成した、新たな放流・活動指針を紹介しました。新指針は、遊漁者の満足度向上のため、種苗放流を含め、漁協の理想の河川像に向けた取組をどのように行うか、その手順をまとめたものです。実施には当事者の意識改革も含め時間がかかりますが、参加者は興味を持ってくれたものと感じられました。

新たな放流・活動指針は、今後使いやすいように編集、冊子にとりまとめて公表の予定です。



内水面漁協役員監視員研修会の様子

2 平成29年度魚道ワークショップ

概要	安田陽一教授主催による魚道整備技術の向上のための情報共有の場
月日	6月27～28日（現地視察29日）
場所	日本大学理工学部駿河台校舎
人数	約70名
演題	富士川四ヶ郷堰魚道の評価への取組 (演者：鈴木邦弘)

安田先生(日本大学理工学部)の情熱により、平成24年から毎年開催されている魚道技術者のための体験型講座です。

発表では、四ヶ郷魚道評価委員会の発足に至った経緯、アユの遡上調査等の経過について紹介した後に、魚道評価の仕方について会場に投げかけました。その結果、会場は大いに盛り上がり、参加者との議論の末、有用な示唆も得ることができました。

その他、日本大学の塚本勝巳教授や俳優の中本賢さんによる特別講演、懇談会では大型ブランドニジマス紅富士の料理も振舞われるなど、非常に有意義なワークショップでした。

なお、3日目には、利根川水系神流川の中ノ沢堰堤において現地勉強会も行われました。



コンビナーの安田陽一教授



魚道ワークショップでの発表の様子

3 内水面漁協第1回組合長会議

概要	静岡県内水面漁連主催の漁協組合長を対象とした研修会
月日	7月8日
場所	天竜自然体験センター湖畔の家
人数	24名
演題	静岡県の淡水魚類の分布や生態 (演者：鈴木邦弘)

第64回静岡県あゆ友釣競技選手権大会の前日に開催されました。最初に、静岡県水産局の中平英典局長が「内水面遊漁の振興につながる最近のトピックについて」と題し、シャープシューティングによるカワウ駆除の実例、ルアーフライ専用区の設置などを御紹介くださいました。続いて会場から、静岡県内における淡水魚の種類数や分布の特徴、移動と棲み分け、アユカケ（カマキリ）の生態について講演しました。アユカケが多く生息できる河川は健全であり、漁協が中心となってそんな川づくりを目指して欲しいことを伝えました。

なお、翌日に気田川で開催された友釣大会では、地元の気田川漁協が個人・団体ともに優勝を飾りました。おめでとうございます。



発表の様子

今後の予定

引き続き、8～9月には内水面漁業関係の講演やイベントが続きます。一連の講演は、伊東市宇佐美の河川で行ったウナギ資源生態研究（平成25～27年度新成長戦略研究）の成果や、富士川の環境復元に向けての動きなどを受けてのものであります。また、これらの講演は、漁業関係者だけでなく、河川管理者、利水者、市町、地域住民など、様々な方が接する良い機会にもなっています。川が、自然にもヒトにも身近で豊かな流れであり続けるために、私達は何をすべきか、皆で考えていければと思います。

(鈴木邦弘・佐藤孝幸)



図
本県に生息する淡水魚の一部

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t/日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
5	126 (9)	250 (11)	2.54	4.97
6	166 (13)	269 (13)	2.54	5.44
7	169(17)	346 (14)	2.59	7.00

* 前年以前の20年間平均値

日誌

5月	6月	7月
1日 県かん水協会役員会(沼津)	沼津駐在(毎週水曜日)	沼津駐在(毎週水曜日)
8日 浜松土木との打合せ(浜松)	8-9日 東海北陸ブロック	漁場環境観測(隔週)
9日 にじます祭打合せ(市内)	内水面場長会(石川)	4日 水産資源課来場
9日 岳南地下水利用協(富士)	9日 養鱒協養殖技術部会(東京)	4日 県部管理局班長来場
10日 内漁連監視員研修会(浜松)	12日 温水クエ VNN 検査	4日 養鱒漁協職員月例会
11日 温水ヒラメ VNN 検査	13日 養鱒漁協職員月例会(市内)	5日 農商工連携打合せ(市内)
15日 内漁連監視員研修会(沼津)	14日 県戦略監来場	6日 GI表示説明会(富士)
17日 養鱒協運営委員会(東京)	14日 危機管理基礎研修会(沼津)	7日 富士川四ヶ郷打合せ(富士)
18日 普及月例会(焼津)	14日 富士川構造物調査(山梨)	7日 全国養鱒技術協議会(東京)
18日 にじます祭打合せ(市内)	15-16日 養鱒協魚病部会(東京)	8日 内漁連組合長研修会(浜松)
19日 第251回技連(焼津)	15日 環衛研研究発表会(静岡)	10日 ワクチン接種指導(沼津)
23日 養鱒漁協職員月例会	16日 養鱒漁協全員協議会	11日 伊豆業者巡回
24日 会計物品研修会(県庁)	20日 にじます祭打合せ(市内)	12日 養鱒用飼料打合せ(横浜)
26日 県かん水協会総会(沼津)	20日 バイテク魚作出指導(場内)	14日 紅富士生産体制会議(市内)
26日 富士川四ヶ郷評価会(富士)	22日 巡回教室打合せ(場内)	14日 にじます祭打合せ(市内)
29日 東京海洋大学打合せ(東京)	23日 魚病担当者会議(焼津)	18日 浜松市場調査(浜松)
31日 マダイ中間育成打合せ(沼津)	27-28日 魚道ワークショップ(東京)	19日 研究報告編集委員会(焼津)
31日 狩野川水質保全協(沼津)	28日 富士6次化セミナー(富士)	19日 猪之頭公園協議会(市内)
31日 観光マーケティングフォーラム(沼津)	29日 富士養鱒漁協総会	20日 にじます祭実行委員会
	29日 契約事務基礎研修会(県庁)	20日 普及月例会(焼津)
	30日 普及月例会(焼津)	21日 紅富士生産体制会議(市内)
		24日 県かん水役員会(沼津)
		26日 内漁連研究要望調査(静岡)
		30日 にじます祭(市内)
<視察見学対応>	<視察見学対応>	<視察見学対応>
9日 函南東小5年(129名)	15日 井之頭小4年(6名)	6日 大宮小3年(78名)
25日 沼津金岡中2年(215名)	23日 御前崎市環境団体(15名)	6日 黒田小3年(118名)
31日 焼津水産高1年(44名)	27日 富士根南小3年(173名)	13日 北山中北友学習(6名)